

豊かな体験活動推進事業（令和元年度～令和3年度）

（国事業名：健全育成のための体験活動推進事業）

大分県版 「宿泊体験活動のてびき」



令和4年3月
大分県教育委員会

はじめに

生活体験や自然体験を多く行なった子どもほど自己肯定感が高い傾向にあるとされる中、令和2年度から全面実施となった小学校学習指導要領や教育再生実行会議等の提言では、改めて生活体験や自然体験、宿泊体験活動の充実や推進が謳われています。

しかし、大分県内の小学校における宿泊体験活動の現状を見ますと、1泊2日で実施している学校が全体の9割を超えており、2泊3日以上宿泊体験活動に取り組む学校は、極めて少ないことが明らかになっています。その要因として、教育課程の確実な実施や教員の働き方改革等の推進により、長期の宿泊体験活動に取り組みにくいことや、教職員の自然体験活動の企画力の不足などが考えられます。

このような現状を踏まえ、平成30年12月には大分県社会教育委員会より「青少年の体験活動の充実・深化を図る社会教育行政のあり方について～社会を生き抜く力を高めるための学習支援と人材育成～」が建議されました。本建議では、「青少年の体験活動の充実」に向けて、県立青少年教育施設の立地条件を生かし、海や山の自然をベースとした自然体験活動プログラムを企画し、広く情報発信をすることが効果的であること、教育課程を支援する体験活動プログラムを開発することで、授業時間数確保や教員の宿泊体験活動への負担感の軽減につながるなどが提言されました。

これを受け、県では、国庫補助事業「健全育成のための体験活動推進事業」を活用し、「豊かな体験活動推進事業」を令和元年度からの3か年計画で実施してきました。

本事業の目的は「子どもの自己肯定感を高めて社会を生き抜く力を身につけさせるため、『主体的・対話的で深い学び』に向けた自然体験プログラムを開発し、小学校教育課程における宿泊体験活動の充実を図る」ことにあります。この目的を達成するため、小学校における2泊3日の宿泊体験活動プログラムの開発と実施、自然体験活動の企画力を高めるための教職員研修等を行ってきました。

このたび、本事業の終了に当たり、その成果と課題を整理するとともに、各学校が実施した宿泊体験活動プログラムと県立香々地・九重両青少年の家が有する活動プログラムをもとに「大分県版宿泊体験活動のてびき」を作成しました。本てびきの活用により各教科等に関連付けた体験を通した「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業や宿泊体験活動を展開する上での参考にしていただければ幸いです。

本てびきが、各小学校や教育委員会、青少年教育施設など宿泊体験活動に関わる関係者に広く活用されるとともに、豊かな体験活動を通して、心豊かでたくましい子どもたちが育つことを心から願っています。

令和4年3月

大分県教育庁社会教育課

課長 後藤 秀徳

目 次

大分県版「宿泊体験活動のてびき」の概要	1
I 宿泊体験活動のてびき 香々地青少年の家編	2
1 香々地モデルプラン	3
(1) モデルプラン1「児童の自主性、自立性を育むプラン」	5
(2) モデルプラン2「海の環境を活かしたプラン」	7
(3) モデルプラン3「森林の環境を活かしたプラン」	9
2 教科等に関連付けた体験活動プログラム例：香々地編	12
(1) 5年 体育科「いかだ活動にチャレンジしよう」	13
○いかだ活動	
(2) 5年 総合的な学習の時間「磯の生き物を観察しよう」	15
○磯観察	
(3) 5年 体育科「海水浴に挑戦しよう」	17
○海水浴	
(4) 5年 特別活動「ロープアスレチックで遊ぼう！」	19
○ロープアスレチック	
(5) 5年 家庭科「食べて元気に！」	21
○野外炊飯	
(6) 5年 総合的な学習の時間「海岸の漂流物調べ」	23
○ビーチコーミング	
(7) 5年 社会科「わたしたちの生活と森林」	25
○枝打ち体験	
(8) 5年 特別活動「ウォークラリーに挑戦しよう」	27
○長崎鼻ウォークラリー	
(9) 4年 理科「きれいな星空を観察しよう」	29
○プラネタリウム・星空観察	
(10) 5年 特別活動「自分だけのオリジナルスプーンを作ろう」	31
○マイスプーン	

Ⅱ 宿泊体験活動のてびき 九重青少年の家編	34
1 九重モデルプラン	35
(1) モデルプラン1「自然体験を満喫するプラン（オールシーズン）」	37
(2) モデルプラン2「自然体験を満喫するプラン（冬）」	39
(3) モデルプラン3「九重の自然を知るプラン（オールシーズン）」	41
2 教科等に関連付けた体験活動プログラム例：九重編	44
(1) 5年 総合的な学習の時間「自分達の地域の長所を知ろう」	45
①自然観察会（施設フィールド活用編）	
②自然観察会（男池湧水群散策編）	
③自然観察会（源流体験編）	
④九重の自然（長者原ビジターセンター、小松地獄、八丁原発電所）	
⑤ランドアート	
(2) 5年 総合的な学習の時間「先人の知恵を学ぼう」	51
①火起こし体験	
②燻製づくり体験	
(3) 4年 理科「今日の星空を観察しよう」	55
○プラネタリウム・星空観察会	
(4) 全学年 体育「スキーにチャレンジしよう」	57
○スキー	
(5) 全学年 体育「フィールドアスレチックにチャレンジしよう」	59
○フィールドアスレチック	
(6) 5年 特別活動「おにぎり山ウォークラリーにチャレンジしよう」	61
○ウォークラリー	
Ⅲ 豊かな体験活動推進事業3年次報告	63
※IKR調査「IKR調査用紙（簡易版）」とは・・・	
1 豊かな体験活動推進事業概要	64
・事業の目的、参加学校一覧（R1～R3）等	
2 豊かな体験活動推進事業のまとめ	66
・IKR結果、成果及び課題等	
3 参考資料	68
・香々地：玖珠町立日出生小学校活動例（様式1～4）	
・九重：九重町立野上小学校活動例（様式1～4）	

大分県版「宿泊体験活動のてびき」の概要

1 てびきの構成

本てびきは、豊かな体験活動推進事業の中で各学校が実施した体験活動プログラム（以下、「プログラム」）と、県立香々地・九重両青少年の家が有する活動プログラムをもとにして、各施設における「2泊3日のモデルプラン」（以下、「モデルプラン」）を3事例ずつ提示しています。

次に、モデルプランに掲載しているプログラムを中心に、「教科等に関連付けたプログラム例」を掲載するとともに、事前・事後指導の例示、育成する資質・能力の例を示しています。また各プログラムについての「概要やねらい、対象や教科例」等を掲載しています。各学校が宿泊体験活動を企画・実施する上で参考としてください。

2 プログラム作成のポイント

（1）モデルプランをもとに2泊3日の宿泊体験活動を計画しよう！

- ・豊かな体験活動推進事業のI K R調査(*)では、1泊2日よりも2泊3日の宿泊体験活動の方が、自己肯定感を含めた「生きる力」を伸ばすことが明らかになりました。特に2日目の活動にゆとりを持って実施することが重要です。 ※ I K R調査結果⇒2泊3日：13.7P向上、1泊2日：8.3P向上

（2）プログラムをもとに体験活動を計画しよう！

- ・例示しているプログラムは、教科等に関連付けています。各学校の教育課程をもとにカリキュラムマネジメントすることで、授業時数の確保にもつながります。

（3）プログラムは、ゆとりをもって設定しよう！

- ・子どもに豊かな体験活動を保障するためには、1つの活動をじっくり実施することです。ゆったりとした活動時間の中で、子どもは挑戦と失敗を繰り返し、課題解決に向けた話し合いをすることにより、学びは深くなり、「生きる力」も向上します。1活動につき2～3時間を目安に「午前1、午後1、夜1」活動が理想です。

（4）ゲストティーチャー（G T）を活用しよう！

- ・豊かな体験活動推進事業では、様々なG Tにご協力いただきました。青少年の家の職員も様々な専門的知識を有していますが、大学職員や体験活動を推進するN P O団体、各青少年の家で養成したG T等に関わっていただくことで、子どものより深い学びにつながります。G Tに関する情報は、各青少年の家職員にお問合せください。

* I K R調査：心理的社会的能力、徳育的能力、身体的能力の3つの能力で「生きる力」を測定するための28項目のアンケート調査紙です。